

加賀市健康福祉審議会 健康分科会資料
平成 2 8 年 2 月 2 4 日

平成27年度保健事業の重点課題の取り組み 及び平成28年度の取り組みについて

1) 生活習慣病予防対策

1. すべての市民を対象とした健康づくり
2. 特定健診・特定保健指導
3. 重症化予防
4. がん予防

かがし健康応援プラン 21（第二次）

<概念図>



※健康寿命：日常生活が制限されずに健康に生活できる期間

■加賀市の生活習慣病予防対策

1. すべての市民を対象とした健康づくり

平成 27 年度の取り組み状況	資料	平成 28 年度の取り組み																																																
<p>(1) 生活習慣病予防セミナー 市民が自分で自分の健康を守り、健康の保持増進を図るため、生活習慣病予防講座を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="109 352 999 847"> <thead> <tr> <th>開催月</th> <th>テーマ</th> <th>参加者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>家庭でできる脱！メタボ運動</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>今こそ学ぶ子宮頸がん</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>目からウロコの生活習慣病予防対策</td> <td>132</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>あなたのこころが楽になるヒント</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>簡単！気軽に運動習慣をつくるコツ</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>生活習慣病予防のための食生活</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>平成28年 1月</td> <td>大切な子ども達を守りたい ～禁煙は愛～</td> <td>約100</td> </tr> </tbody> </table> <p>*生活習慣病予防セミナーは、加賀市保健推進員協議会の全体研修にも位置づけられている。</p> <p>*受動喫煙防止講演会は、禁煙フォーラムとして県、県医師会、加賀市医師会、歯科医師会、薬剤師会等と協働で、アビオシティ加賀で開催された。</p> <p>(2) 一般健康講座（地区・中央） ①ラジオ体操普及事業 健康の保持増進のため、地域での運動の推進として、誰もが知っており、取り組みやすいラジオ体操を普及した。 (H28.2 報告分)</p> <table border="1" data-bbox="109 1284 981 1481"> <tbody> <tr> <td>地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)</td> <td>約50箇所</td> </tr> <tr> <td>ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況</td> <td>大聖寺地区 2 団体 作見地区 1 団体</td> </tr> </tbody> </table>	開催月	テーマ	参加者数 (人)	6月	家庭でできる脱！メタボ運動	65	7月	今こそ学ぶ子宮頸がん	41	8月	目からウロコの生活習慣病予防対策	132	9月	あなたのこころが楽になるヒント	152	11月	簡単！気軽に運動習慣をつくるコツ	76	11月	生活習慣病予防のための食生活	90	平成28年 1月	大切な子ども達を守りたい ～禁煙は愛～	約100	地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)	約50箇所	ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況	大聖寺地区 2 団体 作見地区 1 団体	<p>P 1 図 1</p>	<p>(1) 生活習慣病予防セミナー</p> <table border="1" data-bbox="1223 256 2033 783"> <thead> <tr> <th>開催月</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>加賀市医療センター オープン記念講演会 講師：喜多病院事業管理者</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>がん予防講演会</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>生活習慣病予防講演会</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>こころの健康づくり講演会</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>食のセミナー</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>運動セミナー</td> </tr> <tr> <td>平成29年 1月</td> <td>受動喫煙防止対策講演会</td> </tr> </tbody> </table> <p>市民の健康増進・健康長寿の推進を目的とし、新病院を会場とした『かが健幸長寿講座（仮称）』を平成28年4月に開院する加賀市医療センターと加賀市役所長寿課・地域包括支援センター・健康課等が協働で取り組む。</p> <p>運動についてはスポーツ課等との連携により取り組んでいく。</p> <p>(2) 一般健康講座（地区・中央） ①ラジオ体操普及事業</p> <table border="1" data-bbox="1198 1169 2067 1366"> <tbody> <tr> <td>地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)</td> <td>目標約100箇所</td> </tr> <tr> <td>ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況</td> <td>目標5団体</td> </tr> </tbody> </table> <p>各地区の健康づくり活動やかが健幸長寿講座（仮称）等で、更に事業周知と取り組みを推進する。</p>	開催月	内 容	4月	加賀市医療センター オープン記念講演会 講師：喜多病院事業管理者	6月	がん予防講演会	8月	生活習慣病予防講演会	9月	こころの健康づくり講演会	10月	食のセミナー	11月	運動セミナー	平成29年 1月	受動喫煙防止対策講演会	地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)	目標約100箇所	ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況	目標5団体
開催月	テーマ	参加者数 (人)																																																
6月	家庭でできる脱！メタボ運動	65																																																
7月	今こそ学ぶ子宮頸がん	41																																																
8月	目からウロコの生活習慣病予防対策	132																																																
9月	あなたのこころが楽になるヒント	152																																																
11月	簡単！気軽に運動習慣をつくるコツ	76																																																
11月	生活習慣病予防のための食生活	90																																																
平成28年 1月	大切な子ども達を守りたい ～禁煙は愛～	約100																																																
地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)	約50箇所																																																	
ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況	大聖寺地区 2 団体 作見地区 1 団体																																																	
開催月	内 容																																																	
4月	加賀市医療センター オープン記念講演会 講師：喜多病院事業管理者																																																	
6月	がん予防講演会																																																	
8月	生活習慣病予防講演会																																																	
9月	こころの健康づくり講演会																																																	
10月	食のセミナー																																																	
11月	運動セミナー																																																	
平成29年 1月	受動喫煙防止対策講演会																																																	
地区での実施状況 (保健推進員による把握状況)	目標約100箇所																																																	
ラジオ体操 CD 及び CD ラジカセ貸与状況	目標5団体																																																	

②地区組織の健康づくり事業

地区での健康づくり推進を目的に、保健推進協議会及び食生活改善推進協議会やまちづくり推進協議会などが連携し、地区の状況に応じた取り組みを実施した。

団体名	内 容	備考
保健推進員 (396名) 21地区別で活動	特定健診受診勧奨活動 健康講座の開催	約150回
食生活改善推進員 (125名)	地域での食生活改善講座 の開催・食育活動	約90回
	女性がん検診(15回)会 場での野菜摂取、減塩推進 活動	アンケート 実施 1,320名
	「減塩と野菜あと1皿」を テーマに家庭訪問 (味噌汁の塩分チェック)	127件

P 2
図 2
図 3
図 4
図 5
図 6

②地区組織の健康づくり事業

団体名	内 容	備考
保健推進員 (396名) 21地区別で活動	特定健診受診勧奨活動 健康講座の開催	150回
食生活改善推進員 (125名)	地域での食生活改善講座 の開催・食育活動	90回
	女性がん検診会場での野 菜摂取、減塩推進活動に加 えて、「糖」をテーマに啓 発普及活動	アンケート 実施予定
	「減塩と野菜あと1皿」を テーマに家庭訪問 (味噌汁の塩分チェック)	継続実施予定
	自分の身体に合った適正 量の確認と1食分のおに ぎり提供	特定健診4会場 での実施予定

2. 特定健診・特定保健指導

平成 27 年度の取り組み状況	資料	平成 28 年度の取り組み
<p>(1) 特定健診の実施状況</p> <p>① 特定健診受診率は年々増加している</p> <p>特定健診受診率は平成 26 年度が 43.8%であり、初めて県平均である 43.3%を 0.5%上回った。また、平成 27 年度は 45%の受診率を見込んでいる。</p> <p>② 健診等検査データ提供が受診率の伸びに寄与している</p> <p>平成 26 年度の受診状況の内訳を見ると、<u>医療機関からの健診等検査データ提供が 1,109 件あり、前年より 223 件の増加</u>となっている。また<u>施設健診が 113 件の増加</u>となっている。この件数の伸びが平成 26 年度の受診率の増加に繋がっているため、今年度は残りの期間で保健師等の個別訪問等により健診等検査データ提供の促進を行い、さらなる受診率の増加を目指す。</p> <p>しかしながら、<u>集団健診が平成 24 年度から減少傾向</u>にあるため、平成 28 年度の受診率の増加には、<u>集団健診に繋がる新規受診者の掘り起こしが必要</u>となる。</p> <p>また、昨年度より受診料無料対象者となった <u>40 歳の人の受診数は 40 人</u>であり、40 歳の人の <u>29.2%が受診</u>し、前年度より 6.9%伸びている。今年度より無料とした <u>65 歳の人の受診数は 286 人</u>であり、65 歳の人の <u>47.0%が受診</u>しており、前年度を 1.1%上回った。</p>	<p>P 3</p> <p>図 7</p> <p>P 3</p> <p>図 8</p>	<p>(1) 特定健診等受診率向上対策</p> <p>① 新規受診者の増加を図る</p> <p>① <u>新</u> 専任者を配置し、未受診者への個別訪問にて健康管理状況把握と受診勧奨を実施。</p> <p>② <u>新</u> 魅力ある健診として、健診会場を設け、健診受診者には無料での運動教室を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診初年度対象となる 40 歳、65 歳の受診料無料を継続実施や、若年者健診の実施により、健診継続受診の定着化を図る。 ・引き続き国保データベースシステム（以下「KDB」という）や生活習慣病治療中者リスト（国保連合会に依頼）、医療費と併せた通知を活用し、<u>医療機関と連携した健診受診勧奨を強化</u>。 <p>② 受けやすい健診体制</p> <p>平成 27 年度好評であった特定健診やがん検診が同時に受けることができる <u>レディース健診日及び、総合健診日を増やす</u>。</p> <p>③ 継続受診者への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や訪問等で、個別で健診結果経年表等を作成し、<u>住民自身が健康管理のために健診を有効活用できる、理解しやすい資料を活用し、情報提供を行う</u>。

(2) 特定保健指導の実施状況

① 特定保健指導の実施率は年々増加し、目標値の 60% を超えている。

県は全国 4 位と高い実施率であるが、市は平成 26 年度（法定報告）69.3%と更に高い実施率となっている。

専任者による対象者の希望に合わせた訪問や面接日の確保（土日の指導日設定等）、未利用者への利用勧奨（訪問・電話等）等を行い平成 27 年度は 71.0%の見込みである。

② 特定保健指導の効果

平成 26 年度特定保健指導終了者で次年度も継続して受診した者の内、56.3%にメタボリックシンドロームのリスクの改善が見られ、約 30%が非該当(脱メタボ)となっている。

【改善された(脱メタボ)事例について】

	保健指導前の状況	保健指導	結果
BMI	23.7		➔ 21.0(体重-7.7 kg)
腹囲	91.0 cm		➔ 81.6 cm(-9.4 cm)
59 歳 男性	「1 日 3 食、決まった時間に食べており量も多くない。スポーツジムに週 2 回通い、1 時間程度運動もしている。」 (本人談) ご飯 1 食 250 g 摂取 野菜摂取量少ない	ご飯適正量(180g)、野菜必要量(350g)を提示 運動による消費カロリーの提示(自転車こぎ 30 分=156kcal)	ご飯の適正量を守っている。 朝食と夕食にキャベツの千切りを小鉢 1 杯用意し、最初に食べている。 スポーツジムを週 2 回→週 4 回に増やし運動を継続している。 HbA1c6.8%→6.3% 改善
BMI	25.0		➔ 24.1(体重-2.4 kg)
腹囲	90.6 cm		➔ 84.5 cm(-6.1 cm)
63 歳 女性	体重が減ると畑仕事に力が入らないから、ご飯はしっかり食べる。 果物をよくもらう。もったいないので夫と二人で食べきる。スイカは水分がわりで、一度に 1/4 個食べる。	1 日分の適正な食事量提示(スイカ適正量 1/30 個) 毎日体重測定するよう指導	果物は適正量を守っている。 体重測定を毎日実施。「どんな時に体重が増えるのか分かった。増えた時は食事に気を付けるようにしている」(本人談)

P 4
図 9

(2) 特定保健指導利用率向上対策

新 魅力ある特定保健指導内容として、食事指導、生活指導に加え、下記の内容を新設し、脱落の防止、利用率の向上を目指す。

- ・スポーツインストラクターによる運動指導の実施
- ・自分の体に合った食事量の試食体験の実施

P 4
図 10

新 訪問等でタブレットを活用することで、保健指導を充実させ、メタボリックシンドローム改善効果を上げる。

[解説]

- ・メタボリックシンドロームとは
内臓脂肪が蓄積し、高血糖・高血圧・脂質異常を伴って動脈硬化を進行させ、脳卒中や心筋梗塞などの心血管疾患を起こしやすい状態。
- ・メタボリックシンドローム診断基準
内臓脂肪の蓄積（腹囲 男性 85 cm、女性 90 cm以上）に加え、血糖・血圧・脂質の 3 項目のうち、いずれか 2 項目以上該当の場合
- ・BMI…18.5 未満(やせ)、18.5～24.9（普通）、25.0 以上(肥満)

(3)後期高齢者支援金の加算・減算について

「後期高齢者医療制度」において、1割は高齢者の保険料、約5割は公費、約4割を若年者の保険料からの後期高齢者支援金となっている。

後期高齢者支援金の加算・減算方法は医療保険者の保健事業（特定健診・特定保健指導の実施率）の目標達成状況に応じて行うとされている。

平成 25 年度加賀市国保は減算対象保険者に該当

平成 25 年度の特定健診・特定保健指導の実績に基づき、加賀市は減算対象保険者となる旨の通知があった。

P 5

図 11

(3)保険者に対する予防、健康づくり等のインセンティブの見直し（新たな共通指標）

後期高齢者支援金の加算・減算制度は、医療保険者が生活習慣病予防対策を推進すれば、後期高齢者の医療費の適正化につながることを踏まえ、保険者の努力を評価し、納付額を考慮しようという制度である。

医療保険者に対する後期高齢者支援金の加算・減算制度における新たな共通指標を市町村国保は平成 28 年度事業から評価される予定である。

【共通指標案】

- ①特定健診・特定保健指導の実施率、メタボリックシンドローム該当者予備群の減少率
- ②特定健診に加えて他の健診実施や健診結果等に基づく受診勧奨等の取組の実施状況
- ③広く加入者に対して行う予防・健康づくりの取組の実施状況
- ④糖尿病等の重症化予防の取組の実施状況
- ⑤加入者の適正受診・適正服薬を促す実施状況
- ⑥後発医薬品の使用促進に関する取組の実施状況

3. 重症化予防

平成 27 年度の取り組み状況

資料

平成 28 年度の取り組み

1) 重症化予防対策

P 6

1) 重症化予防対策

(1) 加賀市国保特定健診受診者の重症化予防対象者の推移

図 12

(1) リスクの重なりがある者を優先した重症化予防対策

(年度)	治療なしの者			治療中の者(コントロール不良者)		
	H20	H26	(メタボ該当・予備群該当)	H20	H26	(メタボ該当・予備群該当)
高血糖 (HbA1c7.0%以上)	1.6% (県内 7 位/19)	1.2% ↓ (県内 13 位/19)	51.8% ^②	38.7% (県内 14 位/19)	32.6% ↓ (県内 9 位/19)	52.4% ^②
高血圧 (血圧 160/100mmHg 以上)	3.5% (県内 7 位/19)	2.8% ↓ (県内 18 位/19)	38.9%	6.2% (県内 13 位/19)	5.3% ↓ (県内 7 位/19)	51.9%
脂質異常 (LDL-c160mg/dl 以上)	11.4% (県内 14 位/19)	12.9% ↑ ^③ (県内 6 位/19)	26.5%	4.9% (県内 18 位/19)	4.0% ↓ (県内 15 位/19)	42.3%

重症化予防対象者のうち、メタボリックシンドロームによる糖尿病及び蛋白尿のある者等を優先し、医療と連携し生活改善指導等の保健指導を行う。

(2) 重症化予防対象者へ継続した保健指導の徹底と治療中断者へのアプローチ

過去の健診受診者で重症化予防対象者においては、KDBを活用して継続受診状況を確認し、治療中断者については治療を継続するための働きかけを行い、適切な保健指導を実施する。必要に応じては医療と連携を図る。

(3) 未受診者への健康管理状況訪問の実施

健診未受診及び医療未治療者 3,361 人の健康管理状況の把握を強化し、健診受診につなげ、生活習慣病の発症、重症化を予防する。

① 重症化予防対象者の割合は減ってきている (治療につながっている)。

重症化予防対象者には、保健師、管理栄養士が健診結果説明会や訪問等で健診結果を説明し、レセプトや受診結果報告書 (医療機関との連携様式) の活用により、確実な受診勧奨を行った。

また、医療機関より上記の受診結果報告書が返送され、保健指導の依頼があった場合は医師の指導内容に基づいて、保健指導を実施した。

②高血糖 (3 大合併症の危険が出てくる HbA1c7.0%以上) の者は、メタボリックシンドローム (以下「メタボ」という) 該当者及び予備群該当者の割合が半数を超える。

薬物治療だけでは検査値の改善の難しさがあるため、医療につなげるだけでなく、生活改善 (メタボ改善) につながる保健指導、栄養指導を実施した。

③脂質異常 (LDL コレステロール 160mg/dl 以上) の者の治療なしの割合が高い。

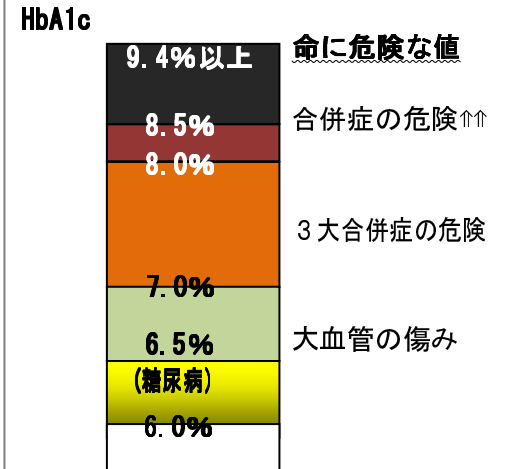
LDL コレステロール 160 mg/dl 以上から、虚血性心疾患の発症・死亡リスクが上昇するとされているため、LDL コレステロール 160mg/dl 以上で治療なしの者に対し、治療につなぐ保健指導を強化した。

(2) 平成 27 年度加賀市国保特定健診を初めて受けた事例から

	検査値	年齢	本人の状況	結果
糖尿病 HbA1c 最高値者	HbA1c14.4%	40代	以前は治療していたが、放置。清涼飲料水を毎日1ℓ(砂糖:約120g(適量20g/日))飲んでた。	教育入院 特定保健指導
次高値者	HbA1c12.9%	50代	5年前は職場で健診受けていた。血糖値は高かったような気はするが、受診はしていない。最近、介護しながらの食事で炭水化物ばかり摂っている毎日。疲れやすい。	治療に つながった
若年者健診 HbA1c 最高値者	HbA1c10.6%	30代	BMI 34(BMI<25)。体格は子供の頃から変わらず。ごはん1食500g(適量200g/日)は食べている。マヨネーズを何にでもかける。	治療に つながった

※HbA1cとは
過去1~2か月の血糖コントロール指標となる検査。

血糖正常化を目指す際の指標 6%未満
合併症予防のための目標値 7%未満
治療強化が困難な際の目標 8%未満



(3) 糖尿病性腎症による新規透析導入者の状況より

(右表)

年度	H24	H25	H26
新規透析導入者数	18	13	9
80代以上	1	2	2
70代	4	3	3
60代	9	7	3
50代	2	1	0
40代	2	0	1

①糖尿病性腎症による新規導入者は減少傾向である(P7 図14)。

透析導入時の年代別でみると、右表の通りである。

透析導入時の保険者別(平成26年度)でみると、9人の内、加賀市国保以外の割合は6人(後期高齢者5人)であった。

②約7割は市の特定健診等の健診履歴がない状況であった(P7 図14)。

加賀市国保で平成24年度から平成26年度の糖尿病性腎症で新規透析導入者40人のうち、17人が透析導入時に加賀市国保であった。透析導入以前の加賀市国保特定健診等の受診状況を見ると、17人中12人(約7割)は市の健診の受診歴がなかった。

4. がん検診

平成 27 年度の取り組み状況	資料	平成 28 年度の取り組み																																																												
<p>(1) がん検診の受診状況</p> <p>全てのがん検診で受診数は増加し、特に大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診では、大幅に増加した。初回受診者も全てのがん検診で前年度より増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受診者数 (受診率)</th> <th>平成 26 年度</th> <th>平成 27 年度</th> <th>増加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>3,655 人 (14.0%)</td> <td>3,822 人 (14.5%)</td> <td>167 人</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>4,217 人 (16.1%)</td> <td>4,439 人 (16.9%)</td> <td>222 人</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>4,400 人 (16.8%)</td> <td>4,800 人 (18.5%)</td> <td>400 人</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>957 人 (16.2%)</td> <td>1,015 人 (17.0%)</td> <td>58 人</td> </tr> <tr> <td>子宮頸がん</td> <td>3,671 人 (29.4%)</td> <td>4,037 人 (31.3%)</td> <td>366 人</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>3,043 人 (25.1%)</td> <td>3,530 人 (28.7%)</td> <td>487 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【受診者数増加に効果のあった取組み】</p> <p>①無料クーポン券、無料券（大腸がん、乳がん、子宮頸がん）の配布</p> <p>市独自の事業である一定の年齢を対象とした無料クーポン券事業によって、受診者数が増加した。国が定めた無料券対象者においても同様に増加した。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>※無料クーポン対象者：大腸がん、乳がん 40 歳以上 60 歳以下の 5 歳刻み 子宮頸がん 20 歳以上 40 歳以下の 5 歳刻み</p> <p>無料券対象者：乳がん検診、子宮がん検診過去 5 年未受診者</p> </div> <p>②無料クーポン券等（乳がん、子宮頸がん）の利用勧奨</p> <p>9 月に乳がん、子宮頸がんのクーポン券等未利用者に対し、受診勧奨通知を行った結果、集団検診で追加日を設けるなど、受診者数の増加につながった。</p> <p>②女性限定のレディース健診日（3 回）実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受診者数（1 回平均）</th> <th>乳がん</th> <th>子宮頸がん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レディース健診日</td> <td>404 人 (134.7 人)</td> <td>326 人 (108.7 人)</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>2,793 人 (73.5 人)</td> <td>1,963 人 (51.7 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>レディース健診は全てのがん検診や特定健診等が同時に受けられることや休日に実施したことで、若い年齢層や友人等と一緒に受診する姿が見られた。また、女性が受けることで家族の大腸がん検診受診（検体提出）につながった。</p>	受診者数 (受診率)	平成 26 年度	平成 27 年度	増加数	胃がん	3,655 人 (14.0%)	3,822 人 (14.5%)	167 人	肺がん	4,217 人 (16.1%)	4,439 人 (16.9%)	222 人	大腸がん	4,400 人 (16.8%)	4,800 人 (18.5%)	400 人	前立腺がん	957 人 (16.2%)	1,015 人 (17.0%)	58 人	子宮頸がん	3,671 人 (29.4%)	4,037 人 (31.3%)	366 人	乳がん	3,043 人 (25.1%)	3,530 人 (28.7%)	487 人	受診者数（1 回平均）	乳がん	子宮頸がん	レディース健診日	404 人 (134.7 人)	326 人 (108.7 人)	上記以外	2,793 人 (73.5 人)	1,963 人 (51.7 人)	<p>P 8</p> <p>図 15</p> <p>(1) がん検診受診率向上対策</p> <p>①レディース健診日、総合健診の増設</p> <p>受診者の利便性を考え、全てのがん検診（胃・肺・大腸・女性がん）、特定健診等を同時に受診できる検診日を増設する。</p> <p>②無料クーポン券の配布の継続</p> <p>無料クーポン券の配布が検診受診に繋がっていることより、初回受診者を増やし、継続受診の動機付けとして無料クーポン券の配布を継続する。</p> <p>③無料クーポン対象者への未受診理由調査</p> <p>受けやすい体制づくりや効果的な受診勧奨等のため、未受診理由を把握するための調査を実施する。</p> <p>④医療機関を通じ、特定健診と併せてがん検診の勧奨</p> <p>図 16 医療機関での特定健診受診時に、かかりつけ医からがん検診の受診を促し、受診へとつなげる。</p> <p>(2) がん検診指針改正について</p> <p>指針の改正を踏まえ、指針に沿った市のがん検診の体制について検討していく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>現行</th> <th>改正後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">胃がん</td> <td>検診方法</td> <td>胃部エックス線検査</td> <td>胃部エックス線検査 もしくは胃内視鏡検査</td> </tr> <tr> <td>対象年齢</td> <td>40歳以上</td> <td>50歳以上（当分の間、40歳代の者に対し胃部エックス線検査を実施しても差し支えない）</td> </tr> <tr> <td>検診間隔</td> <td>1年に1度</td> <td>2年に1度（当分の間、胃部エックス線検査は逐年実施しても差し支えない）</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">乳がん</td> <td>検診方法</td> <td>視触診とマンモグラフィ</td> <td>マンモグラフィ （視触診はマンモグラフィに併用して実施）</td> </tr> <tr> <td>対象年齢</td> <td>40歳以上</td> <td>40歳以上</td> </tr> <tr> <td>検診間隔</td> <td>2年に1度</td> <td>2年に1度</td> </tr> </tbody> </table>			現行	改正後	胃がん	検診方法	胃部エックス線検査	胃部エックス線検査 もしくは胃内視鏡検査	対象年齢	40歳以上	50歳以上（当分の間、40歳代の者に対し胃部エックス線検査を実施しても差し支えない）	検診間隔	1年に1度	2年に1度（当分の間、胃部エックス線検査は逐年実施しても差し支えない）	乳がん	検診方法	視触診とマンモグラフィ	マンモグラフィ （視触診はマンモグラフィに併用して実施）	対象年齢	40歳以上	40歳以上	検診間隔	2年に1度	2年に1度
受診者数 (受診率)	平成 26 年度	平成 27 年度	増加数																																																											
胃がん	3,655 人 (14.0%)	3,822 人 (14.5%)	167 人																																																											
肺がん	4,217 人 (16.1%)	4,439 人 (16.9%)	222 人																																																											
大腸がん	4,400 人 (16.8%)	4,800 人 (18.5%)	400 人																																																											
前立腺がん	957 人 (16.2%)	1,015 人 (17.0%)	58 人																																																											
子宮頸がん	3,671 人 (29.4%)	4,037 人 (31.3%)	366 人																																																											
乳がん	3,043 人 (25.1%)	3,530 人 (28.7%)	487 人																																																											
受診者数（1 回平均）	乳がん	子宮頸がん																																																												
レディース健診日	404 人 (134.7 人)	326 人 (108.7 人)																																																												
上記以外	2,793 人 (73.5 人)	1,963 人 (51.7 人)																																																												
		現行	改正後																																																											
胃がん	検診方法	胃部エックス線検査	胃部エックス線検査 もしくは胃内視鏡検査																																																											
	対象年齢	40歳以上	50歳以上（当分の間、40歳代の者に対し胃部エックス線検査を実施しても差し支えない）																																																											
	検診間隔	1年に1度	2年に1度（当分の間、胃部エックス線検査は逐年実施しても差し支えない）																																																											
乳がん	検診方法	視触診とマンモグラフィ	マンモグラフィ （視触診はマンモグラフィに併用して実施）																																																											
	対象年齢	40歳以上	40歳以上																																																											
	検診間隔	2年に1度	2年に1度																																																											

